

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **09215982 A**

(43) Date of publication of application: **19 . 08 . 97**

(51) Int. CI

C02F 1/74
C02F 1/74
C02F 1/461

(21) Application number: **08045629**

(22) Date of filing: **08 . 02 . 96**

(71) Applicant: **EBARA CORP**

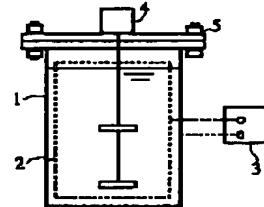
(72) Inventor: **SO KEISEN
SERIKAWA ROBERUTO
MASAHIRO**

(54) SEWAGE TREATMENT METHOD AND APPARATUS

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent the formation of scale for a long time in the treatment of sewage even if hard water is treated.

SOLUTION: In this wet oxidizing treatment method of sewage adding an oxidizing agent to sewage at a high temp. under a high pressure to oxidize and decompose an org. pollutant in sewage, the oxidizing treatment is performed by using a metal reactor 1 and the inner wall of the reactor 1 is set to an anode and a cathode 2 is provided in opposed relation to the anode to apply DC voltage across the anode and the cathode so that an electrolytic current becomes constant. In this method, when the applied voltage rises to a predetermined set value, it is pref. to apply inverse voltage across both electrodes for a definite time in the same electrolytic current and the reactor 1 is pref. cylindrical and the cathode is pref. composed a mesh cylindrical electrode.



COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-215982

(43)公開日 平成9年(1997)8月19日

(51) Int.Cl. ⁶ C 02 F 1/74 1/461	識別記号 101 ZAB	序内整理番号 F I C 02 F 1/74 1/46	技術表示箇所 101 ZAB 101C
---	--------------------	--------------------------------------	------------------------------

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平8-45629
(22)出願日 平成8年(1996)2月8日

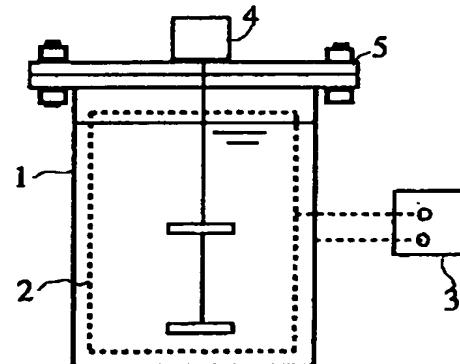
(71)出願人 000000239
株式会社荏原製作所
東京都大田区羽田旭町11番1号
(72)発明者 蘇慶泉
神奈川県藤沢市本藤沢4丁目2番1号 株式会社荏原総合研究所内
(72)発明者 芹川ロベルト 正浩
神奈川県藤沢市本藤沢4丁目2番1号 株式会社荏原総合研究所内
(74)代理人 弁理士 吉嶺桂 (外1名)

(54)【発明の名称】汚水の処理方法及び装置

(57)【要約】

【課題】 硬度の高い被処理水を処理しても、長時間スケールの生成を防止できる汚水の処理方法と装置を提供する。

【解決手段】 汚水中の有機性汚濁質を、高温加圧下で酸化剤を加えて酸化分解する汚水の湿式酸化処理方法において、該酸化処理を金属製反応器1を用いて行い、該反応器の内壁を陽極とし、該陽極と向かい合うように陰極2を設けて陰陽極の間に電解電流が一定となるように直流電圧3を印加することとしたものであり、該方法において、印加電圧が所定の設定値に上昇したら、同一の電解電流において両電極間に逆の電圧を一定時間印加するのがよく、また、前記反応器は円筒状のものがよく、陰極はメッシュ状の円筒電極とするのがよい。



【特許請求の範囲】

【請求項1】汚水中の有機性汚濁質を、高温加圧下で酸化剤を加えて酸化分解する汚水の湿式酸化処理方法において、該酸化処理を金属製反応器を用いて行い、該反応器の内壁を陽極とし該陽極と向かい合うように陰極を設けて陰陽極の間に電解電流が一定となるように直流電圧を印加することを特徴とする汚水の処理方法。

【請求項2】請求項1記載の処理方法において、印加電圧が所定の設定値に上昇したら、同一の電解電流において両電極間に逆の電圧を一定時間印加することを特徴とする汚水の処理方法。

【請求項3】高温加圧下で酸化剤を加えて酸化分解する汚水の湿式酸化処理装置において、円筒状の金属製反応器を用いて、該反応器の内壁と向かい合うようにメッシュ状の円筒電極を設け、直流電源を前記反応器と円筒電極に接続したことを特徴とする汚水の処理装置。

【請求項4】前記金属製反応器は、金属チタン製であるか又は該内壁に金属チタンを内貼りしたものであるか、又は該内壁に白金をメッキしたものであることを特徴とする請求項3記載の汚水の処理装置。

【請求項5】前記円筒電極は、金属チタンの基材に白金をメッキしたものであることを特徴とする請求項3又は4記載の汚水の処理装置。

【発明の詳細な説明】

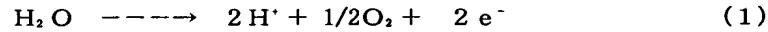
【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、汚水の処理に係り、特に、有機性汚濁質を含む汚水を高圧反応器で酸化分解する湿式酸化処理方法と装置に関する。

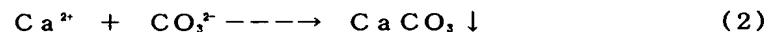
【0002】

【従来の技術】従来、有機性汚水、特に生物難分解性COD(化学的酸素要求量)含有汚水や活性汚泥の処理において、高圧反応器にて高温、高圧及び粉末状酸化触媒添加の条件下で、酸素や過酸化水素などの酸化剤を過剰に加えて、汚水中の有機性汚濁質を酸化分解する湿式酸化法は公知である。しかし、従来の湿式酸化法は、硬度が高い被処理水の場合には、120℃以上の温度範囲において処理を行うと、被処理水中のカルシウム等の硬度成分が過飽和となって反応器の内壁に析出し、いわゆるスケールが生成する。該スケールをそのまま成長させると反応器の有効容積が減少し、やがて処理が機能できなくなる等の問題があり、また、一旦生成したスケールを除去するのが極めて難しい。

*



によって水素イオンが生成するので、反応器内壁に接する液の薄膜、即ち液境界膜の酸性度を内部の被処理水に比べて高く維持することができる。一方、被処理水の温※



【0007】ところが、酸性度が高い液境界膜において★ ★は、下記の重炭酸イオン生成反応(3)

$$\text{CO}_3^{2-} + \text{H}^+ \longrightarrow \text{HCO}_3^- \quad (3)$$

が進行し、その結果、反応器内壁における反応(2)に

*【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、前記従来技術の問題点を解決し、硬度の高い被処理水を処理しても、長期間スケールの生成を防止できる汚水の処理方法と装置を提供することを課題とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明では、汚水中の有機性汚濁質を、高温加圧下で酸化剤を加えて酸化分解する汚水の湿式酸化処理方法

10において、該酸化処理を金属製反応器を用いて行い、該反応器の内壁を陽極とし、該陽極と向かい合うように陰極を設けて陰陽極の間に電解電流が一定となるように直流電圧を印加することとしたものである。前記処理方法において、印加電圧が所定の設定値に上昇したら、同一の電解電流において両電極間に逆の電圧を一定時間印加するのがよい。また、本発明では、高温加圧下で酸化剤を加えて酸化分解する汚水の湿式酸化処理装置において、円筒状の金属製反応器を用いて、該反応器の内壁と向かい合うようにメッシュ状の円筒電極を設け、直流電源を前記反応器と円筒電極に接続したものである。

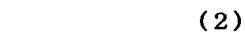
20【0005】前記処理装置において、金属製反応器は、金属チタン製であるか、又は該内壁に金属チタンを内貼りしたものであるか、又は該内壁に白金をメッキしたもののがよく、また、前記円筒電極は、金属チタンの基材に白金をメッキしたものがよい。反応器内壁と陽極の距離、即ち電極の極間距離は狭いほど電圧が下がるが、浮遊固体物による詰まりの恐れがあるので、3~10ミリ程度が望ましい。このように、本発明は、反応器の内壁を陽極にし、定電流電源を用いて該陽極に常時一定のアノード電流を流すことによってスケールの生成を防止するものである。即ち、高温加圧下で、汚水中の有機性汚濁質を酸化剤を加えて酸化分解する汚水の湿式酸化処理方法において、円筒状の金属製反応器の内壁を陽極とし、該陽極と向かい合うようにメッシュ状の円筒陰極を設けて、陰陽極の間に電解電流が一定となるように直流電圧を印加することにより、スケールを防止するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。

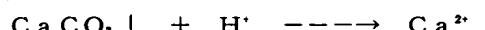
40定電流電源を用いて反応器の内壁に一定のアノード電流を流すと、下記の水アノード分解反応(1)

※度上昇に起因するスケールの生成機構は主に、温度上昇に伴う炭酸カルシウム溶解度の低下によるものと考えられており、析出反応は下記(2)の通りである。



よる炭酸カルシウムの析出が抑制される。さらには、一

且前記内壁に析出した炭酸カルシウムは下記の反応



によって溶解、除去される。また、反応(4)による溶解作用の他に、反応(1)によって発生した酸素ガスによるスケールの剥離作用も有効である。しかしながら、本発明による陰極の表面にはスケールの析出が避けがたい。そこで、陰極表面のスケール析出に伴って陰極表面の電気抵抗が上昇し、一定の電解電流(アノード電流)を維持するために、定電流電源の出力電圧である印加電圧が上昇することになる。

【0008】本発明は、印加電圧が所定の設定値に上昇したら、同一の電解電流において両電極間に逆の電圧を一定時間印加するようにしている。それによって陰極表面に生成したスケールを、前記反応(1)及び反応

(4)によって溶解、剥離して除去する。そして、逆電圧印加の所定時間経過後に、正電圧の印加を再開する。電解電流は反応器内壁面積1平方センチメートル当たり、0.1ミリアンペア以上、即ち電解電流密度として $1\text{ mA}/\text{cm}^2$ 以上であればよいが、好ましくは0.5~ $5\text{ mA}/\text{cm}^2$ の範囲が望ましい。本発明によって消費する電解エネルギーの大部分は、熱エネルギーに変換し、被処理水の加熱又は温度維持に有効に利用されるので、ランニングコストが嵩むことがない。導電性及び耐食性から、反応器の内壁材料はステンレス鋼の基材に白金メッキをしたもの、又は金属チタン又は金属チタンの基材に白金をメッキしたものが好適である。

【0009】反応器の内部に装着するメッシュ状の円筒電極は金属チタン又は金属チタンの基材に白金をメッキしたもの又はステンレス鋼の基材に白金をメッキしたもののが望ましい。亜臨界又は超臨界条件下での水溶液処理



※も本発明の請求範囲内にあることはいうまでもない。次に、本発明を図面を用いて説明する。図1に、本発明の処理装置の全体構成図を示す。図1において、1は円筒状の金属製反応器であり、反応器1と向かい合う形でメッシュ状の円筒電極2が設けられており、反応器1と円筒電極2は定電流電源3と接続されており、酸化処理の間、一定電流が印加されている。そして、4は攪拌機、

10 5は蓋である。

【0010】

【実施例】以下、本発明を実施例を用いて具体的に説明する。

実施例1

実験に用いた装置は図1に示すものである。用いたオートクレーブの反応容器は円筒状で内容積が 300 ml 、材質がチタンに白金メッキを施したものであった。陰極として備え付けた電極は円筒メッシュ状で、材質がチタンに白金メッキを施したものであった。反応容器と陰極との距離は4ミリであった。被処理水としては、カルシウム硬度が 250 mg/L で、総アルカリ度が 200 mg/L となるように、水道水に塩化カルシウムと炭酸水素ナトリウムをそれぞれ添加して用いた。前記被処理水 250 ml を反応容器に入れて昇温すると同時に、電流 150 mA (陽極電流密度として $2\text{ mA}/\text{cm}^2$)の定電流電解を開始した。一定の昇温速度で加熱し、 200°C を40分保持した。この間の電圧の変化及び電解極性の変換を下記表1に示す。

【0011】

【表1】

時間 (分)	温度 (°C)	電圧 (V)	電解極性
0	20	4.2	正
10	50	4.3	正
20	80	4.6	正
30	110	5.3	正
40	140	5.9	正
50	170	6.3	正
60	200	6.5	正→逆
70	200	4.3	逆
80	200	4.6	逆→正
90	200	4.1	正
100	200	4.3	正

【0012】100分経過後に電解を停止してオートクレーブを冷却した。その後に反応容器と陰極を取り出して表面を観察したが、スケールの付着が全く見られなかった。一方、比較のために、電解をしない点を除いて上記の実験と同じ条件で比較実験を行った。実験後に反応

容器と陰極を取り出して表面を観察したが、両方とも白いスケールが付着していた。

【0013】

【発明の効果】本発明においては、前記したような簡単な方法及び装置で湿式酸化処理における反応器内壁への

5

6

スケール生成問題を解決できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の処理装置の全体構成図。

* 【符号の説明】

1: 反応器、2: 円筒メッシュ状陰極、3: 定電流電

* 源、4: 搪拌機、5: 蓋

【図1】

